

知的資産経営報告書

2010年版



豊かな自然と融合し育んだ、切削技術を但馬から世界へ



1. 目次

1. 社長より皆様へ		3
2. 経営理念		4
3. 経営基本方針・環境方針		4
4. 沿革		5
5. 事業概要		6
6. 事業価値		7
7. 知的資産 ①		8
経営者のリーダーシップ		
知的資産 ②		10
人材育成		
知的資産 ③		11
経験豊かな技術者とオペレーター		
知的資産 ④		12
YPSシステム稼働		
知的資産 ⑤		13
海外直接調達(タイ・韓国・中国)		
8. 将来に向けた価値創造		14
9. 企業概要		15
10. 知的資産とは		16
11. 本書ご利用上の注意		16
12. お問い合わせ先		16

1. 社長より皆様へ

すばらしい自然に囲まれた兵庫県 村岡の地に昭和43年9月に創業以来、急激な時代の変革にも対応して 顕著に業績を拡大し、40有余年の年輪を刻むことができました。

これも偏に、お得意様をはじめ地域社会の皆様方のご支援、ご協力の賜と心より感謝申し上げます。

弊社では創業以来、高精度の生産技術の向上と創造性に富む明るい職場風土の確立に努力してまいりました。

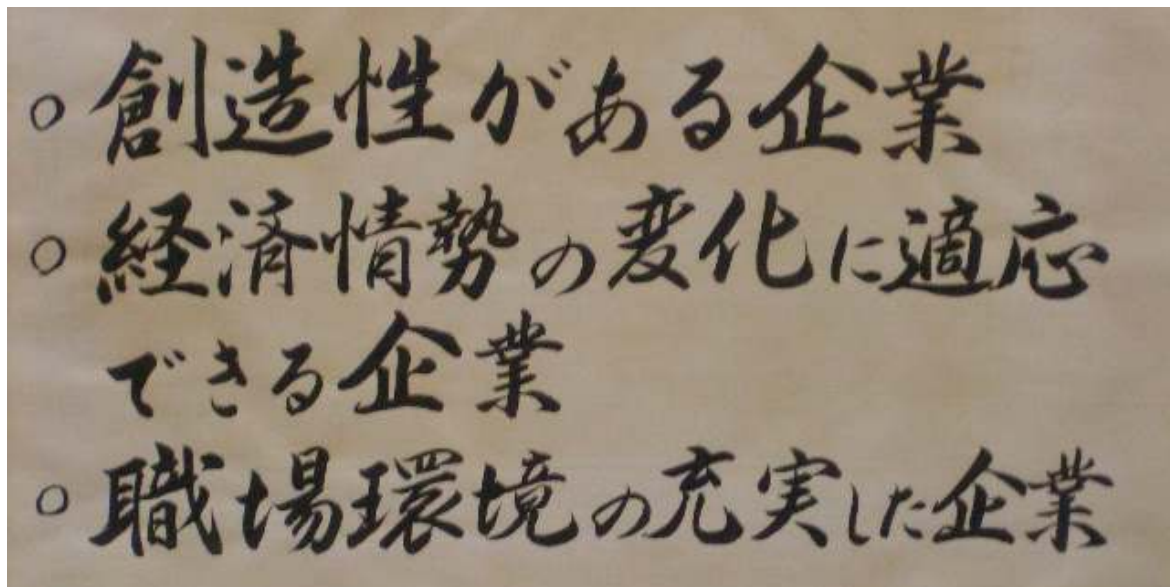
これからも世界に躍進する企業として地域社会の発展に貢献してまいる所存です。今後とも、より一層のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長 竹内晴祥

社名の由来 : 美方郡の“美”と村岡の“岡”を取り“美岡工業(よしかこうぎょう)”と命名

2. 経営理念



3. 経営基本方針・環境方針

経営基本方針

- ① お客様第一主義に徹する
- ② 技術・品質・コスト・納期でお客様の信頼を得る
- ③ 社員の生活向上を計り、社会に貢献する

環境方針

昨今世界規模で地球環境問題に対して改善が求められており、またこの素晴らしい自然に囲まれた兵庫県村岡に位置する当社は高精度の生産技術と創造性に富む明るい会社を構築してきた。

今後も、社員一人一人が地球環境保全に対する意識を持ち、省エネに取り組み、資源の有効利用と環境汚染防止の活動を推進して、地球環境に配慮し、地域社会の発展に貢献する会社を目指す。

4. 沿革

- 1968年9月 各種歯車を中心に製造開始
- 1972年2月 オートバイ部品製造工場増設
- 1976年5月 NC旋盤、マシニングセンター導入
- 1979年9月 農機具、工作機械部品製造の為工場増設
- 1983年6月 自動車部品製造。第二工場新設
- 1993年9月 建設機械、重機部品製造。事務所・工場の増設
- 1998年12月 隣接の土地購入、工場増設
- 2000年4月 姉妹会社 ヨシオカテクノ有限会社創設
- 2001年5月 知事認証(中小企業 経営革新支援法)
- 2002年2月 イギリス TRIUMPH社と取引開始
- 2002年3月 姉妹会社 ヨシオカテクノ有限会社工場増設
- 2003年9月 ISO9001:2000 を取得
- 2004年10月 兵庫県「元気企業」に選定
- 2004年7月 中国大連事務所開設
- 2005年1月 大型MC導入 工場増設
- 2005年4月 好学協同組合設立
- 2005年9月 知事認証(中小企業 経営革新支援法)
- 2005年9月 乗用車エンジン用精密部品製造 工場増設
- 2006年11月 タイ工場設立
- 2007年11月 西脇工場設立
- 2008年2月 大阪中小企業投資育成会社様により
資本金を4000万に増資
- 2008年3月 日本政策投資銀行様取引開始
- 2008年4月 「KANSAIモノ作り元気企業(近畿経済産業局)」
に選定
- 2008年5月 矢田川工場設立
- 2009年5月 ISO14001:2004を取得

5. 事業概要

大型・小型・精密部品とあらゆるニーズにお応えする部品加工メーカー

創業以来40有余年、部品加工・製造メーカーとして自動車用部品他 あらゆる産業機械・装置類の大型・小型・精密部品の製造を手掛けています。

・事業内容

自動車部品 オートバイ部品 建設機械部品 工作機械部品

農業機械部品 エンジン等の精密部品 重電機関連大型機械部品 車両部品

その他各部品の製造



オートバイ用チェンジドラム



建設機械用油圧部品



建設機械用大型部品

・所有設備

MC 30台 CNC旋盤 105台

ターニング 2台 各種機械 55台



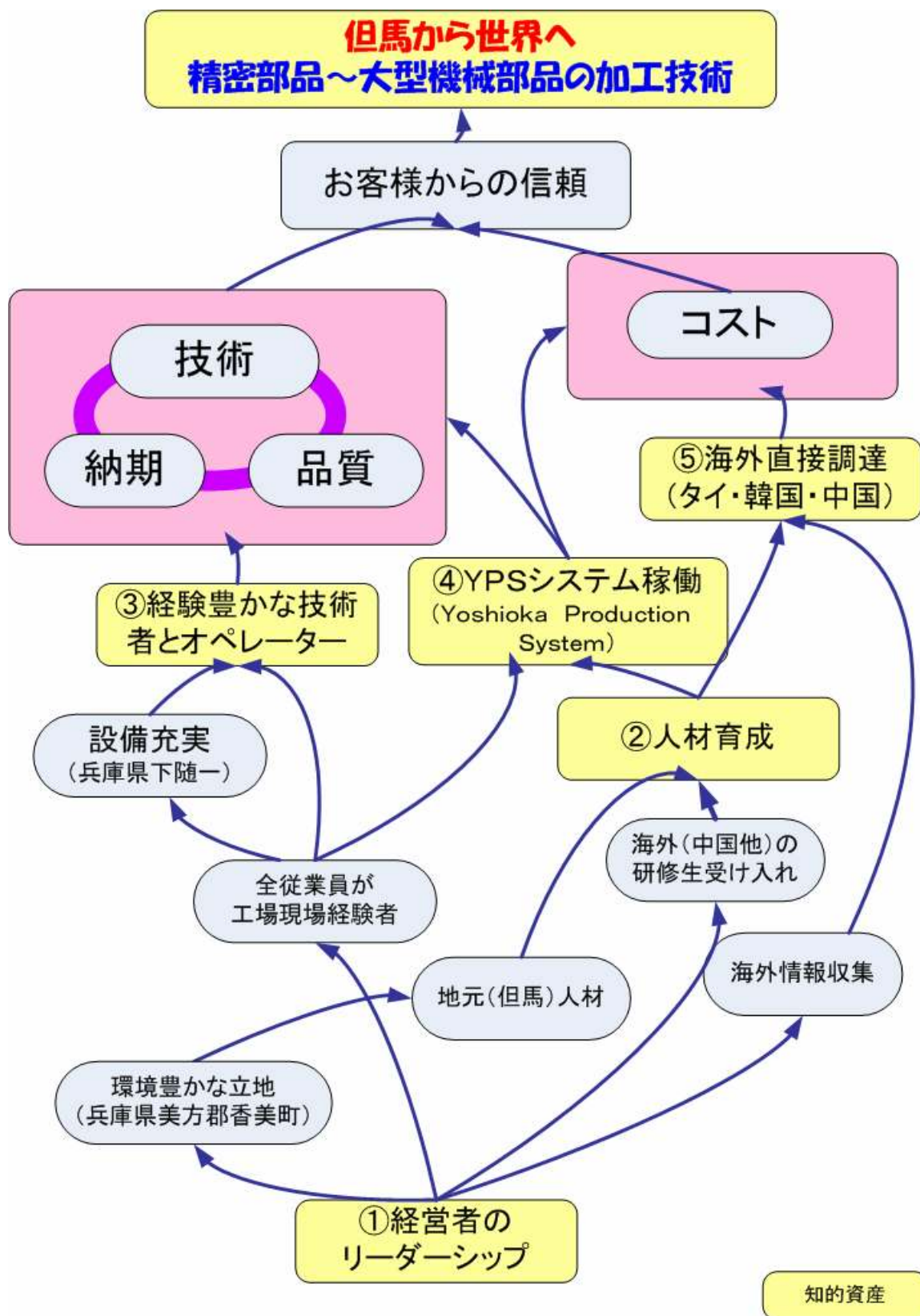
・品質の要 検査装置

大型三次元測定器 真円度計 面粗度計 超音波探傷器

形状測定器 硬度計 投影機 歯車検査器 その他

厳しい品質管理のもと、精根込めた高品質の製品を生み出しています。

6. 事業価値



7. 知的資産① 経営者のリーダーシップ

経営者のリーダーシップ

1997年 竹内晴祥 新社長に就任

新社長方針 ”*僻地からの脱皮 世界的美岡工業への挑戦*“

美岡工業は自然環境に恵まれた地域に在るが冬は雪が多く、客先との距離も遠い、客先との情報活動、輸送の利便性など、不安材料も多く村岡に留まる企業で良いのか懸念を持ちつつスタートしました。

竹内社長は機械の知識が豊富で機械好き

○工場内の生産性の向上に着手

ロボットを導入自動化を図りNC旋盤20台にロボローダを設置しロボットラインを構成、生産性を大幅にアップさせ月産15万個のダイナモ用プーリの加工ライン確立と省人化を実施しました。更に生産性を上げ省人化を図る為、2軸旋盤を10台など多くの最新設備を導入すると同時に多種多様な加工ニーズに対応出来る基盤を確立しました。

○将来を見据えた展開へ

近い将来、量産部品は海外へ流出し仕事が減少すると捉え、国内に残る大型部品、精密部品に的を絞り積極的に大型機械の導入を行い、機械設備、切削技術共に県内で1、2を争う加工メーカとしての地位を築きました。

○将来の予測が的中し受注拡大へ

大型機械導入が功を奏し建設機械の大型部品の受注が大幅に増え工場の増設、更には西脇工場設立など一気に業績を上げ、建設機械メーカの協力工場受注1位にランクされました。更に精密部品も受注が増大し新たに工場を設立月産12万個を24時間体制で生産しています。予測通り大型部品及び精密部品の受注が増加し、業績を大きく伸ばし経営基盤の安定化を実現しました。

反面、多く在った量産品は激減して行きましたが、大物から精密部品迄加工出来る企業へと成長を遂げる事が出来ました。

7. 知的資産① 経営者のリーダーシップ(続き)

いよいよ 世界的美岡工業への挑戦

会社経営に当り大手企業とのビジネスは厳しく、常にコストダウンを強いられ更に各企業の海外進出が始まり美岡工業のあるべき姿を模索し海外へと踏み出す。

○世界的美岡工業へ

1. 海外進出への布石

海外研修生の受け入れ	ベトナム	研修生受け入れ	2名	(1995年)
	中国	研修生受け入れ	53名(延人数)	(1999年～現在)
	タイ	研修生受け入れ	3名	(2004年)
	インド	研修生受け入れ	2名	(2006年)

2. 価格低減を目的に海外調達への取り組み

韓国より、材料調達開始	鍛造品, 鋳造品, 歯車を輸入	(1998年)
中国より、材料調達開始	鋳造品素材, 完成品を輸入	(2004年)
タイより、材料調達開始	鋳造品素材, 完成品, 歯車を輸入	(2005年)

3. 海外への進出

中国 瀋陽事務所 設立	(2003年)
香港 佳星貿易 設立	(2004年)
中国 大連事務所設立	(2004年)
タイ バンコク事務所 設立	(2006年)
タイ 工場 設立	(2007年)

○経営母体である美岡工業の経営基盤の強化を図る

管理部門を創設、営業社員を増員し積極的に営業活動を展開し新規取引先数社と取引を始めました。また念願の企業への新規参入も果たすなど顧客の開拓に成果をあげる新規採用の営業社員は、阪神間の居住者で自宅を営業所としてお客様との距離を無くしました。

○経済情勢の変化に対応できる企業に

お客様 第一主義に徹して対応

営業と現場が一体となり、素材の輸入から・切削加工・歯切加工・表面処理迄

一貫加工で、完成品をお客様に納品することで業務の合理化とコストダウンを提供します。

○創造性のある企業へ

新営業戦略、従来の古い概念を捨て新分野への飽くなき挑戦を始めます。

超硬度金属の切削技術・溶射金属の切削・航空機分野・造船業界・果ては、宇宙ロケットまでと夢は大きく果てしなく、夢で終わらせないのが ”但馬人の粘りと根性“ です。

7. 知的資産② 人材育成

“最大の財産は人財だ” 逞しい人材育成を目指しています。

① 幹部社員教育 人生経験豊富な上司から人間学の継承

- ・ 幹部に必要な資質を養う
- ・ 幹部としての品格を養成
- ・ 幹部としての自覚を養う
- ・ 幹部としての士気を養う



② 人材育成は仲間作りから、人材の定着化

- ・ 体力・精神面の向上を養いモチベーションを高める
- ・ 協調精神を養い職場のコミュニケーションを図る
- ・ 過疎地に根づく愛社精神



村岡ダブルフルウルトラ ランニング100Kに出場

③ 職場改善 教育訓練

- ・ 管理者の役割と実行力
- ・ 現場の “整理整頓” 現場主体の改善
- ・ 班長主導の職場改善を実施

④ 40有余年の時・・・工場長の想い

1968年 創立、先代社長(現会長)は、手旋盤8台で小規模な工場からスタートしました。

1970年 機械の自動化により、自動旋盤を導入し自動化を図る為”自動旋盤を52台設置”

1976年 機械のNC化により、他社に先駆けNC旋盤・ロボット・マシニングセンターを次々導入。

創立以来の25年間は常に二次外注としての道を歩んできました。その間自動化に取り組む等
“二次外注でも利益を出せる” 企業体質を築き上げて来た事が、後の美岡工業へ繋がる礎となりました。

“但馬人の人間性を活かす!” 日本海のスルメと同じ “噛めば噛む程味が出る” 粘り強く直向に取り組む、此処と言う時に力を出せる集団へと育って行き、漸く但馬で有数の企業へ発展を遂げました。 過疎地に在って若者の働く職場も少ない地域で美岡工業を定着させ一人でも多くの若者が地元で働けるようにする事で、地域の活性化に繋がればと考え日々頑張っています。

7. 知的資産③ 経験豊かな技術者とオペレーター

経験豊かな幹部社員からの固有技術の伝承

1. 経験豊かな技術者 幹部も技術者

- ① 40有余年間培って来た、経験豊かな幹部社員からの技術の伝承
 - 1) ベテラン技術者が、3ヶ月間プログラマー教育を実施
 - 2) プロ(職人)の熟練した技能の伝承で多種多様な切削技術修得
 - 3) 社員の1/3が技術者、多種小ロット、短納期への対応
 - 4) 固有技術であるオートバイ(チェンジドラム)部品の技能伝承
- ② 段取り会議(技能アップ)を実施して日々進化
 - 1) 治工具・切削刃具の研究から、段取り時間・加工タイムの短縮
 - 2) 創意工夫から、“今日の最高は、明日の最低を” モットーに進化
 - 3) 難切削材・異型材への取り組み



2. 優秀なオペレーター

- 1) 日々進化する多能工化に対応可能オペレーター
- 2) 大型、小型、精密部品への対応オペレーター
- 3) “品質は工程で作り込み、工程で保証する” 責任感を持つオペレーター
- 4) ムリ、ムダ、ムラのコスト意識を持っている、オペレーター



7. 知的資産④ YPS (Yoshioka Production System)の稼働

受注・在庫(製品, 材料)・工程(加工状況)等をシステムにて管理し、お客様の御希望に対応します。

また、お客様の発注データ等をWeb-EDI経由(CSVファイル)でYPSへ取り込みご注文に対して迅速に対応しています。

・スーパー工場長(現場端末)

主な機能

1. 工程管理
製品別、機械別の工程管理と確認
2. 部品管理
在庫、材料発注、外注品管理と確認
3. 実績管理
加工実績、稼働率等の管理と確認
4. NCプログラム、マスタ管理等

・スーパー工場長(生産管理)

主な機能

1. 受注、売上及び請求管理
受注管理、請求処理、売上確認等
2. 発注・加工指示
発注処理、加工指示書の発行等
3. 仕入管理
材料検収、発注状況の確認等
4. その他
日計処理、マスタ管理等

8. 将来に向けた価値創造

40有余年間の時を刻み培った、切削技術を結集し、進化させ世界を視野に

① 過去 1968年～1999年

1. 先人達が築き上げてきた事業への想いと、技術を忠実に継承し基礎を築く
2. 創業当初から手懸けたオートバイミッション部品のチェンジドラムは海外を含め4メーカになり、自社製品として世界に通じる固有技術となっています。

② 現在 2009年～2010年

1. 海外より材料・完成品を直接仕入れ、低コストで供給できる拠点を作り顧客の拡大
2. 海外への展開、韓国より材料・完成品の輸入でコストダウン実現、タイ工場設立
3. 将来を見極め200余台にもなる設備の導入、最新鋭の設備を駆使し技術の進化

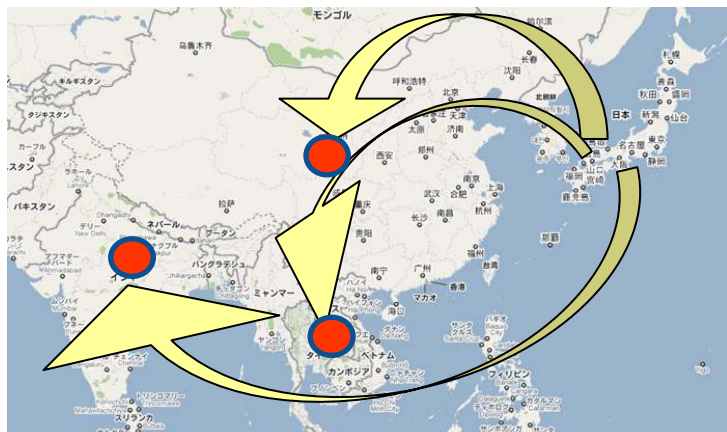
“充実した設備”、“磨かれた切削技術”、“顧客への対応力”、“頼れる雑草集団”

但馬から世界への布石を築く

③ 将来向けて 2010年～

新しい分野への挑戦

1. 特殊金属(超硬度鋼)切削加工技術の開発と習得 難切削材の克服
2. 航空機、宇宙事業分野、造船、原子力分野への挑戦
3. 大手商社と提携しチェンジドラムの海外拡販を図る
4. 海外調達事業の拡大、加工完成品の調達、中国8社、韓国8社に拡大
5. タイ工場受注拡大
6. 中国工場設立
7. インド工場設立



9. 企業概要

会社名 美岡工業株式会社
所在地 兵庫県美方郡香美町村岡区入江1318番地
〒667-1368
TEL : 0796-95-0112
FAX : 0796-95-0125
E-mail : info@ysok.jp
ホームページ : <http://www.ysok.jp>
代表者 代表取締役 竹内晴祥
資本金 4,000万円
創立 1968年
従業員数 93名
本社工場 兵庫県美方郡香美町村岡区入江1318番地
土地 8.300㎡
建物 2.991㎡
主な取引先(順不同)
川崎重工業株式会社
三菱電機株式会社
三菱重工業株式会社
キャタピラージャパン株式会社
TRIUMPH (英国)
株式会社 KCM
大阪機工株式会社
ヤンマー 株式会社
日本インジェクタ株式会社
コベルコクレーン株式会社
バンドー精機株式会社
双日オートモティブエンジニアリング株式会社
他 数社

10. 知的資産とは

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源資である人材・技術・技能・知的財産(特許・ブランド等)・組織力・経営理念・顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源・総称を意味します。よって、「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー(利害関係者)に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動(価値創造戦略)として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しています。

11. 本書ご利用上の注意

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しています。そのため、将来に亘り当社を取り巻く経営環境(内部環境及び外部環境)の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来に亘って保証するものではないことを、十分にご了承願います。

12. お問い合わせ先

〒667-1368
兵庫県美方郡香美町村岡区入江1318番地
美岡工業株式会社
担当者： 管理部 井上道広

TEL： 0796-95-0112(代)
FAX： 0796-95-0125
E-mail： info@ysok.jp

13. 作成支援

本報告書は(財)ひょうご産業活性化センターの知的資産経営支援事業により、以下の支援者のご協力を得て作成しました。

Officeイワサ 中小企業診断士 岩佐修二